

2024年5月19日 No. 3720

先週の講壇から

〃 神の子とする霊 〃

ローマの信徒への手紙 第8章 12節～17節

聖句「あなたがたは…神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。」(8:15)

1. 《子供になること》 高齢者の介護者が本人を子供扱いすることがあります。認知症の進行の度合いと症状の如何によっては、実際に世話を当たっている家族にとっては、子どもとも思わなければ遣り切れない面があります。でも本人には大人としてのプライドもあります。主は「子供のようにならなければ、天国に入れない」と仰いましたが、本当の子供のように成るのは難しいのです。但し、時折り、ピュアな子どもの本人が姿を見せることもあるのです。
2. 《私の内なる子供》 どんな高齢者でも、どんな人の中にも子供の自分が隠れています。私たちが子供のように成れるとしたら、そんな私に付き合ってくれる誰かがいてくれて、それで初めて成立するのです。相手との関係性の中から生まれるものなのです。大阪の教会にいた頃の話です。幼少期に母親に連れられて教会に通っていた中年男性が、何十年ぶりに礼拝に出席しました。すると、幼年時代の彼を知る 70～80 歳代（当時としては高齢者です）の婦人たちが彼を取り囲んで、幼稚園児のように接して居られました。彼は照れ笑いをするしかありません。社会人、営業部長、父親、夫などの包み紙を剥がれて、普段は、一番奥に仕舞い込んでいるナイーブな子供が姿を見せた瞬間でした。
3. 《神の子供になる》 聖霊とは、私たちを「神の子」にしてくれる存在です。もはや子供のように成れない、疑り深く根性の曲がってしまった、こんな私たちでさえも「神の子」にして下さる、それが聖霊の働きなのです。誰でも一度や二度は、人生の歩みの中で、神さまに守られている（守られた）と感じる瞬間があるでしょう。そこには何の根拠も何の証拠もありません。ただ、私たちが感じるだけです。それを「信仰」と言います。幼い子供たちは、私が「親だから」「血の繋がりががあるから」と言って愛してくれるのではありません。そんな言葉は知りません。でも、自分を愛してくれる、一緒に暮らしていて世話をしてくれる、そういうことを感じているから、彼らの方でも愛と信頼を寄せてくれるのです。「アッバ」とは「喃語／赤ちゃん言葉」です。神の愛に応えて呼びかけましょう。

朝日研一朗牧師